

投資事業評価調書（継続：再々評価）

部課室名	農林水産部農林水産局 治山課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	治山課長 元井 賢一 ( 山田 要治 )	内線	4128 (4134)
事業種目	林道整備事業	事業採択年度	H3	現計画	再評価時点
事業名	市町営森林管理道開設事業	着工年度	H3	総事業費	約8億円
		再評価年度	H10	内用地補償費	0億円
事業区間	粟ヶ尾線	完成予定年度	H23		H23
所在地	美方郡村岡町村岡～美方郡村岡町村岡	進捗率 (内用補進捗率)	65%(-%)		40%(-%)
事業の目的			事業内容		
<p>木材生産、林業振興のみならず、水源かん養、山地保全、環境保全、保健文化など森林の多面的機能の持続的発揮や山村地域の活性化・振興を図ることを目的として整備する。 事業主体：村岡町</p>			<p>林道整備：延長5,600m [ 残延長2,124m ] 幅員4m 負担割合：国50%、県1%、町49%</p>		
進捗状況	<p>H3年度に着手し、再評価時(H10年度)の完成延長は約1.8kmであった。H15年度末の開設予定延長は約3.5kmで約62%が供用開始となる見込みであり、計画どおり進んでいる。 今後も路肩幅の縮小など一層事業コストの縮減を進めるとともに、構造物の既製品化による省力化や工期短縮の取り組みを進め、当初の予定どおりH23年度に事業完了させる予定である。</p>				
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	<p>再評価時に村岡町公共事業評価監視委員会として森林資源の有効活用と更なる森林・林業の振興を図ることとされたが、当地は過疎地域であり、再評価実施以後も林業従事者の減少、高齢化が進み木材価格が低迷している。 このような状況の中、森林整備の重要性がますます高まっており、過疎地域における今後の森林整備は高性能林業機械の導入や林業従事者の通勤時間短縮など生産性の向上や労働環境の改善を図ることが不可欠である。また、森林整備の促進による森林の多面的機能の発揮や、森林基幹道「妙見・蘇武線」と連絡し終点付近にある「カキツバタ群落」を活用した地域振興を図るうえからも引き続き本林道の継続整備が必要である。</p>				
(2)有効性・効率性	<p>当路線の費用便益比 <math>B / C = 1.84</math> であり事業効果が期待できる。また、地元からも早期開通の要望が強く、町の事業実施体制も整っている。</p>				
(3)環境適合性	<p>地形に沿った波形ルートを採用し地形の改変を最小限に抑え、間伐材の積極的な利用を行っている。また、林道の整備にあわせ森林整備を進めることによって森林の持つ多面的機能の発揮を図っている</p>				
(4)優先性	<p>林道利用区域の森林整備は緊急かつ重要な課題になっており、再評価時に村岡町公共事業評価監視委員会から早期完成を目指すよう意見されている。森林の多面的機能の発揮や地域の活性化のため、林道を優先実施する必要がある。</p>				
再々評価の結果	継続妥当	左の理由	上記理由により、事業継続が妥当である。		